ICHIEI

巻頭トクシュウ

珍味で世界中に笑顔を届ける

海産物珍味やナッツ、お菓子やドライフルーツ、漬け物などを自社で製造、加工、卸しまで行う「一榮食品」。春日井市内に本社と工場があり、おいしいおつまみやおやつを作り続けています。

味わい深い「さきいか」や「チーズたら」、「うずらのたまご」や「おしゃぶり梅」などの珍味や駄菓子は、大人から子どもまで、つまみたくなるもの。そんなお菓子や海産物珍味を製造し、全国各位に流通させている会社が一榮食品です。OEM（他社ブランドの製品の製造）も行い、一榮食品の名がつかない商品も多数流通されていることから、多くの人が口にしたことがあるはずです。中には、「健康菓集ナッツ&フルーツ」や「おばあちゃんの焼き小あじ」をはじめ、「芸能人のお気に入り」としてメディアで紹介された商品もあります。

河合大輔代表取締役と、先代もありましたが器が大きく、行動力があり、会社も従業員も一丸となって進んできました」と振り返ります。

社長逝去による交代とコロナ禍が重なった年、売り上げは初めて前年を割ったといいます。

「これまで、帆立貝などの珍味は海外の方にも好まれていました。ところが、コロナ禍で訪日外国人のお客さまが珍味を購入するインバウンドの機会が減少。世代交代と重なり、会社は守りの時期に入りました」と木全さん。

コロナの影響に対し、新社長である河合さんの打開策は、「お客さまが日本に来られないのであれば、こちらから売りに出向けばいい」というシンプルな考えでした。積極的に海外へ売りに行く方向へ舵を切った「一榮食品」は、中国、オーストラリア、北米、ベトナムへと販路を広げます。そして、売り上げはこれまでと同じ成長曲線の傾きを取り戻し、再び各国のファンの元に、日本が誇る珍味が届くようになりました。

業界のアイデアマンである先代が創設した珍味の会社

の頃から業界のことをよく知る木全勝彦取締役に、これまでの歩みを聞きました。

創業者の池田栄一氏は、「一榮食品」の設立前、同業界大手で営業を担当していました。

「先代は、月商1億円も売り上げた〝伝説の営業マン〟として、珍味業界では知られた人物でした。時は昭和30年代から40年代で、『さきいか』のような乾燥珍味がパッケージ化され、量り売りの市場だけでなくスーパーに並び始め、業界全体が追い風でした。そこで、新ジャンルにどんどんアイデアを出してリードしたのが先代だったのです」と木全さん。

珍味といえばさきいか一辺倒だった時代に、帆立貝などの新素材を次々に提案。また、小さなサラミやカリカリした小梅などの商品を企画して、売り場で一緒に並べるアイデアも、池田氏によるものだそう。

「先代の営業先は全国各地にあったため、良いアイデアはすぐに広がり、今では珍味業界の定番になっている事例も多いのです」。

やがて独立した池田氏は、平成4（1992）年に「一榮食品」を設立しました。

社長交代とコロナ禍 新基軸は「海外に打って出る」

現在は、本社のある春日井市と九州に工場を持ち、商品開発から製造、品質管理、パッキングや出荷までを自社で行っています。従業員は、パートタイマーを含め約250名。取り扱うアイテム数は、珍味類からどら焼きまで、数千種類を数えます。

創業以来、売り上げを伸ばしてきた「一榮食品」。池田氏の逝去により、コロナ禍の2020年1月、河合大輔さんが46歳で代表取締役に就任することになりました。

「私は平成7（1995）年に20歳で入社し、製造や出荷を経て、翌年から問屋さんへ営業に出ることになりました。最初の配属は地縁のない沖縄県で、カーナビもない時代に、文字通り右も左も分からないまま駆け回りました。当時は設立後間もなかったので、『何の会社？』といぶかしがられることも多かったのですが、反面、同世代が経験できないような大きな仕事やチャンスを任され、会社と共に成長できました。先代は厳しく

春日井から世界へ！笑顔を届ける会社

社会貢献に取り組み 世界中に笑顔を届ける

「安心・安全でおいしいものを皆さまの元に届けたい。卸業として、問屋さんの『売りたいもの』を形にしたいという思いは、先代の頃から変わりません」と話す河合さん。現在は6名の営業担当者と共に、自ら新製品を企画し、開発しています。

こうして2022年に生まれた新商品が、おしゃれな「3種類のチーズクリームパンケーキ」や、干し梅に紀州産の梅を練り込んだ、ソフトタイプの「やわらか小梅まる」です。時には、話題性のある面白い商品も考案。激辛唐辛子のキャロライナリーパーを使用した「恐怖の殺気烏賊（さきいか）」は、余興の景品としても好評です。

また、社会貢献やSDGsにも積極的に取り組みます。

「九州の工場では先代の頃から、製造工程で余剰となったどら焼きを子ども食堂に寄付したり、社債をフードバンクの活動に寄付したりしています。また、令和2（2020）年からは、国連世界食糧計画レッドカップキャンペーンに参加。レッドカップマークのある『こんぶ天』をはじめ、寄付付き商品を展開し、途上国の子どもたちへの学校給食を支援しています」

会社のスローガンは〝和顔愛味（わげんあいみ）〟。「一榮食品のおつまみやお菓子を通して、世界中に笑顔を届けたい」。先代から継承したその思いで、挑戦は続きます。

株式会社 一榮食品

春日井市十三塚町3-2　http://www.ichieifoods.co.jp

取締役
総合企画部部長
木全勝彦さん

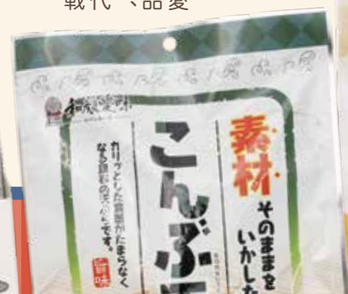
いちおし！

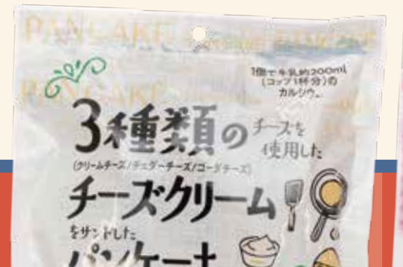
好きな珍味は一番の売れ筋でもある「帆立大王」。家族でお酒を楽しむ。

代表取締役
河合大輔さん

毎日楽しめる！

お酒が大好きで、「合わせる珍味は日によって変わる」とのこと。





取材/倉畑桐子　カメラマン/ミゾグチジュン